

# Business Process Management(BPM) Solution ＝業務プロセス可視化ソリューション＝



## 今こそ、経営環境の変化に応じた業務プロセス可視化を

昨今の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるパンデミックの影響をトリガーとして、急速なデジタル化の進展、サプライチェーンや金融市場のグローバル化などにより、クロスボーダーでの組織間相互関連性が增大する中、企業が対応しなければいけない課題もより多様化・巨大化しています。こうした状況に対する洞察力の欠如やNew Normalへの移管が遅れることによって、かつての競争力を失ってしまう企業も少なくありません。New Normalへの移管は、経営戦略レベルの課題と業務プロセスレベルの課題を同時進行で検討しながら、経営活動の前提をデジタルに移行する非常に難易度の高い取り組みです。PwCあらた有限責任監査法人では、PwCグローバル・ナレッジを活用しつつ、まずは業務プロセスの可視化を足掛かりとし、デジタル化を含む業務プロセスレベルの課題に対してマネジメントプロセス・トータルの視点で様々なソリューションを提供していきます。



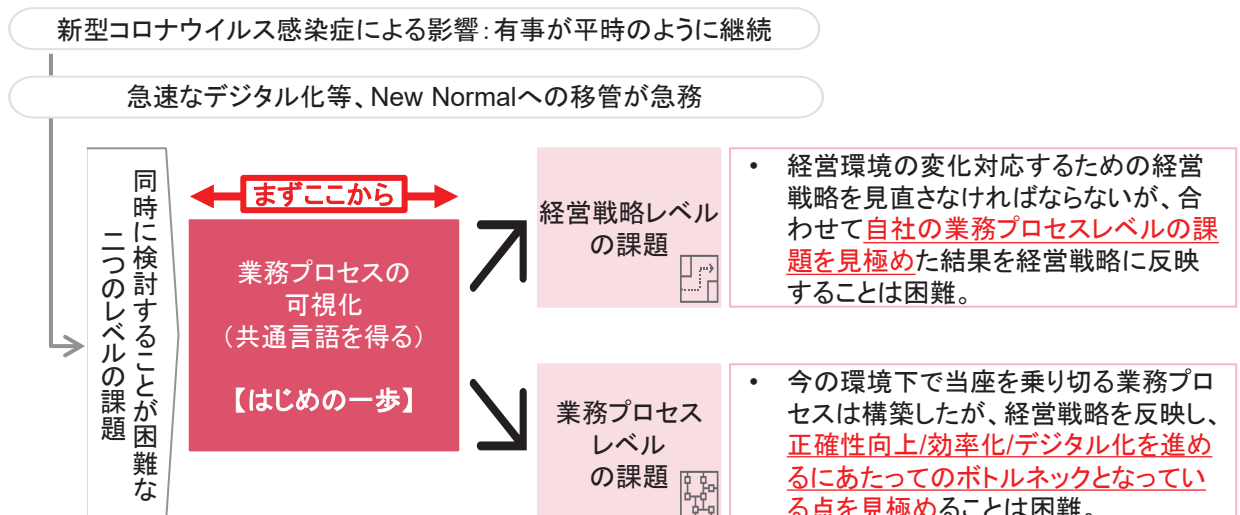
### こんな「悩み」をお持ちではありませんか？

A	以前に整理した「業務プロセスの見える化」が陳腐化し、業務効率化/デジタル化を進める際に活用できない。
B	これからデジタル化を進めていこうと思っているが、どこから効率化していいのかわからない。
C	新型コロナウイルス対策により、急速にテレワーク化に対応したが、突貫工事に対応したため、業務プロセスの最適化が図れているか自信がない。
D	新型コロナウイルス対策はひと段落し、何とか業務は回っているが、セキュリティやデジタルツールの乱立等の派生リスクへの対応に不安が残る。
E	デジタル化を強力に推進してきたが、本質的な問題は部門などの機能単位のオペレーションではなく、部門間連携や業務プロセス全体で考える必要があった。

昨今の経営環境においては、New Normalに対応可能な経営基盤を構築する必要性が高まっている一方で、スムーズかつ着実なNew Normalへの移管を実現できている企業は極めて少ないのが実情です。

## PwCの考え方

経営戦略レベルの課題と業務プロセスレベルの課題を同時に検討する必要があることが、New Normalへの移管の最大の難点であり、この難点を乗り越えるための共通言語を得るために、まずは業務の可視化から始める(【はじめの一步】を実施する)べきであると考えます。





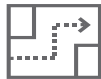
## PwCのアプローチ

急速な経営環境下においてパッチワーク的に進めてきたNew Normalへの移管は、多くの課題が発生しているものと推察します。環境変化に耐性がついてきた今だからこそ、可視化をスタートポイント(はじめの一步)として経営戦略レベル・業務プロセスレベルでの課題の検討を進めることで、New Normal時代において最適な経営基盤の構築が可能になるものと考えます。

### 経営戦略レベル・業務プロセスレベルでの課題の検討

#### 課題検討の前提: 業務プロセスの可視化【はじめの一步】

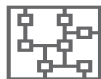
##### 経営戦略レベルでの課題の検討



➤ 優先領域の特定・投資計画の策定

• 業務プロセスレベルの課題を積み上げ、優先的に対応すべき領域・対応に必要な投資計画の策定が可能

##### 業務プロセスレベルでの課題の検討



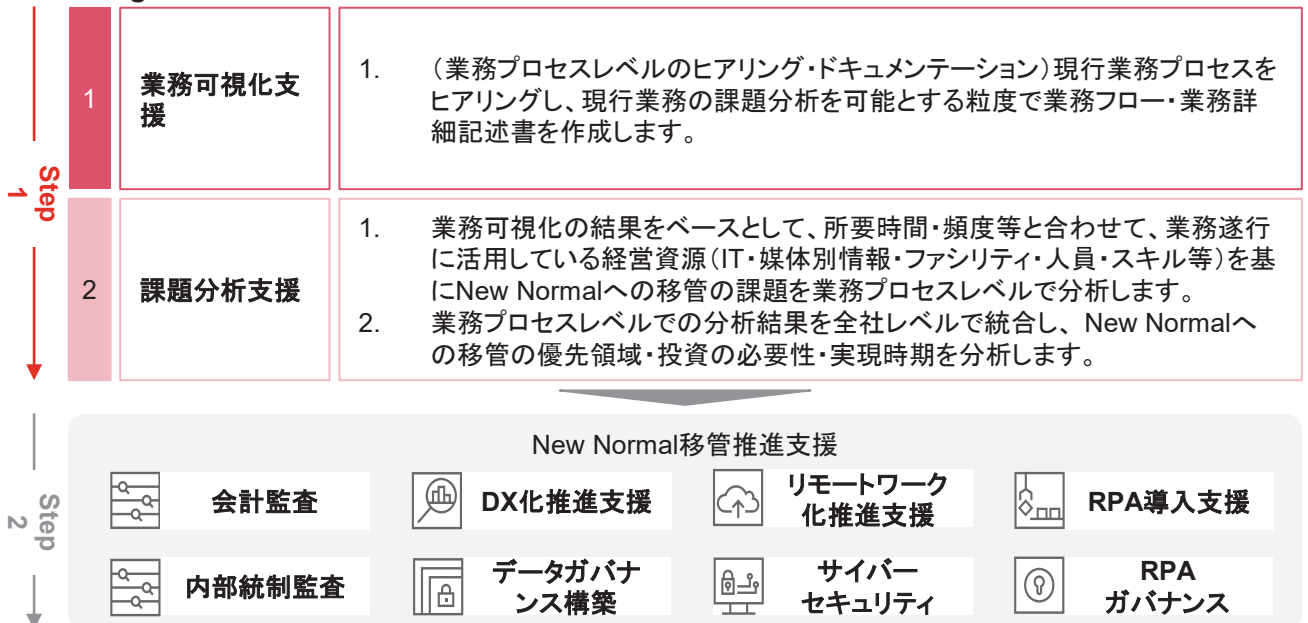
➤ 経営戦略を業務に適用する際の課題の明確化

• 戦略を業務に適用する際の課題をプロセス別・経営資源別に把握・検討が可能  
• 現場レベルでの継続的な業務改善を行う基礎を作ることが可能



## 取り組みのイメージ

New Normalへの移管の第一歩として、PwC業務可視化・課題分析支援(=Business Process Management(以下、BPM))をご提供しています。



## Business Process Management(BPM) Solution

宮村 和谷 Kazuya Miyamura

T:+81 (0) 80-3445-1982

E: kazu.miyamura@pwc.com

市川 敦史 Atsushi Ichikawa

T:+81 (0) 80-3583-4309

E: atsushi.ichikawa@pwc.com

組橋 勇一郎 Yuichiro Kumihashi

T: +81 (0) 80-4860-5580

E: yuichiro.kumihashi@pwc.com